

## 1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学
1986年3月	同 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程進学
1990年3月	同 単位取得退学
1990年4月	帝塚山学院大学文学部専任講師
1994年4月	帝塚山学院大学文学部助教授
1995年4月	東京女子大学文理学部助教授
2003年4月	東京女子大学文理学部教授
2007年12月	東京大学大学院人文科学研究科 国語国文学専門課程 博士（文学）学位取得
2009年4月	東京女子大学現代教養学部教授（改組による学部名変更）
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本上代文学・和歌文学

### b 研究課題

上代（奈良時代以前）日本文学を、韻文中心に研究している。特に『万葉集』の歌人、柿本人麻呂や、大伴家持の作品について、その読み直しを課題としている。『万葉集』の和歌は、中国の先進文明に正面から向き合って成立した日本という国家における草創期の文芸であり、漢詩文の表現に対して、学びつつ対抗するという両義的な関係を結んでいる。それゆえ、当時伝来していた六朝・初唐の漢詩文との比較・対照を主たる研究方法として、和歌独自の表現を明らかにしつつ、その価値を見出すことを論文執筆の際の、目標としている。更に『万葉集』は、7世紀前半から、8世紀中ごろまでの和歌の歴史を語る書物であると考えられ、歌人たちの積み重ねた作品群がいかなる軌跡を描くか、すなわち『万葉集』の和歌史を明らかにすることを、研究全体の目標とする。

### c 主要業績

#### (1) 著書

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 からだ』、岩波書店、2013.6

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 はたらく』、岩波書店、2013.7

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 つながる』、岩波書店、2013.8

単著、鉄野昌弘、『日本人のこころの言葉 大伴家持』、創元社、2013.8

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 たたかう』、岩波書店、2013.9

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 いのる』、岩波書店、2013.10

共著、久保田淳・佐伯真一・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子、『人生をひもとく 日本の古典 死ぬ』、岩波書店、2013.11

#### (2) 論文

鉄野昌弘、「防人歌再考～「公」と「私」～」、『萬葉集研究』33集、塙書房、75-128頁、2012.10

鉄野昌弘「編纂者としての大伴家持～「十五巻本」と「二十巻本」～」、『アナホリッシュ国文学』1号、62-70頁、2012.12

鉄野昌弘、「をとこをみなの花にほひ見に 一卷二十家持作歌の方法一」、『萬葉』、215号、1-22頁、2013.9

鉄野昌弘、『万葉集』巻十六について ―「無心所著歌」を中心に―、『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』、27、2014.3

鉄野昌弘「家持の歌のかたち ―越中時代へ、越中時代から―」『高岡市萬葉歴史館叢書 26 歌の道 一家持へ、家持から―』2014.3

(3) 学会発表

上代文学会 1 月例会発表「大伴家持の防人関連歌をめぐって」2014.1.11、於昭和女子大学

**3. 主な社会活動**

(1) 他機関での講義等

早稲田大学文学学術院（大学院）非常勤講師、2012.4～2013.3

東京女子大学非常勤講師、2013.4～2014.3

(2) 学会

萬葉学会、編輯委員

上代文学会、常任理事

(3) 学外組織

日本古典文学学術賞選考委員会委員

大学評価・学位授与機構、国語・国文学部会専門委員